ニイガタ除雪の達人選手権 2023 in キューピットバレイ
～持続可能な除雪体制の確保に向けて～

山﨑　陽平＊１

１．はじめに

近年、道路除雪オペレーター（以下「オペレーター」という。）の高齢化や若い世代の入職者数減少により、将来的な除雪体制の維持が課題となっています。ニイガタ除雪の達人選手権は、オペレーターの技術及びモチベーションの向上などの人材育成の目的や、若い世代へ除雪に興味をもってもらうことで将来の担い手確保に向けた人材確保への成果も期待し、令和２年度から毎年開催しており、今回で４回目を数えます。

ここでは、上越・妙高地域では初開催となる第４回大会（以下「本大会」という。）について報告します。

２．開催概要

2.1　日時及び会場

日時：令和５年８月26日（土）正午～午後３時

会場：キューピットバレイスキー場（上越市安塚区）

2.2　参加チーム

上信越道、国道18号や地域の生活道路である県道、市道などそれぞれの道路除雪を担うオペレーターの代表14名が集い日頃から鍛え上げた除雪車の操作技術を競い合いました。

表１　参加チーム一覧

担当官庁	企業名	チーム名
国交省	㈱上越商会	国道18号除雪隊
NEXCO	㈱草間組	スノーウルフ・高田
新潟県	㈱栄鵬建設 ㈱郷土建設藤村組	郷土・栄鵬除雪JV
新潟県	頸城建設㈱ 大陽開発㈱	頸城・大陽JV
新潟県	㈱武江組 ㈱米持建設	日立ZW同好会
上越市	㈱第三建設 ㈱牧建設	チームDM
上越市	㈱丸和総建 ㈱蓑和土建	チームM

※１チーム２名で合計14名が参加

2.3　競技内容

競技は、きめ細やかな操作技術を要する前半A種目と、ダイナミックな操作に注目の後半B種目に分け実施しました。

①　クランクの達人（A種目）

特設クランクコースをコーンなどの障害物に接触しないように前進で走行し、操作の正確性とスピードを競いました。

写真１　クランクの達人

②　雪だるま帽子おとし（A種目）

大中小３つの雪だるまに被せた帽子を排土板で落とし、操作の正確性とスピードを競いました。本大会の新競技です。

写真２　雪だるま帽子おとし

③ 寸止め車庫入れ（A種目）

後進により車庫入れを行い、除雪車と車庫の壁までの距離の近さを競いました。

写真３　寸止め車庫入れ

＊１　新潟県　上越地域振興局　地域整備部　上越東維持管理事務所　維持管理課

④ 雪室スラローム（B種目）

天然雪を排土板で運搬しながら特設S字コースを走行し、操作の正確性とスピード及び除雪の出来ばえを競いました。本大会の新競技です。

写真４　雪室スラローム

⑤ ピタ止めの達人（B種目）

後進により走行し、目標ラインに排土板をどれだけ近づけられるかを競いました。

写真５　ピタ止めの達人

⑥ その他（体験ブース）

共同主催者の新潟県建設業協会安塚支部の企画・運営で、ミニバックホウによるスーパーボールすくいや、仮桟橋の製作体験を実施しました。

写真６　仮桟橋の製作体験

2.4　競技結果

団体の部は、日立ZW同好会（新潟県チーム）の池田悟さん（㈱武江組）と斎藤恭平さん（㈱米持建設）が優勝に輝きました。

個人の部では、A種目で斎藤恭平さんが団体の部との連覇を果たし、B種目は国道18号除雪隊（国土交通省チーム）の市川幹雄さん（㈱上越商会）が栄冠に輝きました。

写真７　表彰式の様子

３．本大会で工夫したこと

本大会を当事務所管内で開催することが決まり関係者との共有が図られたのは２月中旬、その後の人事異動などもあり、初回の担当者会議を開催できたのは４月中旬のことでした。

この会議で会場と日時を本決定したわけですが、本番までわずか４ヵ月・・・マンパワーに乏しい維持管理事務所での実施にいささかの不安を感じるなか「できる範囲でやろうよ！」との所長の号令のもと職員の思いは実施に向け一致しました。また、建設業協会安塚支部からは「やるならマジの勝負がしたい！」との熱い思いも述べられ、大会に向けた準備が本格始動しました。

以降の準備から実施に当たっては「限られた時間のなか開催目的をいかに達成するか」を課題とし様々な調整や作業を進めました。以下に本大会の実施に当たり工夫した点を報告します。

3.1　地域特性を生かした新競技の設定

上越市の安塚地区は、雪室による農産物の貯蔵、施設の冷房など、全国に先駆けて雪冷熱エネルギーの活用が進んでいる地域です。

本大会では、「雪だるま帽子おとし」や「雪室スラローム」など雪室で貯蔵されていた天然雪を活用した新競技を実施しました。

「真夏の除雪イベント！？」と注目を浴び、テレビや新聞などのマスコミに取り上げられことで、県民から除雪に興味をもってもらう良い機会になったと考えています。

写真８　雪室の天然雪を活用

3.2　地元高校生を対象とした見学会

将来の担い手確保を目的として、上越総合技術高校と高田農業高校の高校生を対象とした見学会を企画しました。

開催日が夏休み期間中であり参加人数は限られましたが、普段はじっくり見ることができない除雪車の運転技術を間近でご覧いただけたことは、高校生にとって良い経験になったのではないかと思います。

3.3　山のうえ真夏の雪まつりとの同時開催

「山のうえ真夏の雪まつり（以下「雪まつり」という。）」は、地元企業などが実行委員となり、天然雪を活用した催しやキッチンカーの出店など、毎年８月にキューピットバレイスキー場で開催される人気イベントです。本大会は、雪まつりに合わせて日程を組み、８月下旬に雪まつりと同時開催することとしました。

写真９　両イベントの広報パンフレット

事前に雪まつりの実行委員と打ち合わせを行い、雪まつりにおいて、雪合戦やそり遊びなど例年のイベント以外に、「建設機械ブース」を設けていただきました。

写真10　雪まつりの建設機械ブース

同時開催により高い集客力が得られたことは、本大会にとって大きなメリットでした。両会場は隣接し徒歩で移動可能なため、雪まつりで「遊び・食べ」、そして本大会で「見て・体験する」という両イベントの相乗効果が生まれました。

当日の来場者数は約2,500名と過去大会の記録を大きく更新しました。

写真11　大会会場から雪まつり会場を望む

3.4　除雪業務におけるSDGsのPR

新潟県除雪オペレーター担い手確保協議会※の上越地域協議会において、除雪業務をSDGsと関連付けてPRする取組を進めており、本大会ではその一環として競技車両に「除雪SDGsマグネットステッカー」の試作品を張り付けてPRを行いました。

大会後も、マグネットステッカーの完成品を事務所管内の除雪車に張り付けるなどしてPRを継続しています。

※オペレーターの担い手確保に向けた検討や関連する課題解決のための取組を実施している協議会

写真12　マグネットステッカー試作品

４．まとめ

大会後に選手として出場したオペレーターと話す機会がありました。大会に出場してどうだったか尋ねたところ「やるからには本気でやりたいと思った」、「賞がもらえ

て良かった」などうれしい感想をいただいたほか、あるオペレーターは「管内代表として平場のオペレーターには絶対負けたくなかった」と語りプライドを覗かせました。

本大会を通じ、オペレーターの技術及びモチベーション向上の目的は十分に果たせたものと感じました。また、メディアに取り上げられたことや高校生の見学会により、県民から少しでも除雪に興味をもってもらうことができ、担い手育成の効果も一定程度はあったのではないかと思います。

最後に、大会開催にかかる事務負担の軽減などの課題はありますが、今後、ニイガタ除雪の達人選手権が、持続可能な取組となり将来的な除雪体制の維持につながることを期待しています。本大会の開催に当たり御協力いただいた関係者の皆様に感謝を申し上げ報告を終わります。

写真13　大会後の集合写真